

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 5 号

発行日
2023.6.15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「岳陽」は、意外な形で顔を見せるかも!!

相変わらず、月日が経つのは早いもので、今年も、既に6月の半ば、そして、新年度が始まって、2か月半が過ぎた!ただ、少々湿っぽい?話とはなるが、新年を迎えても、あるいは新年度を迎えても、私の日常には、ほとんど変化がない!現役を退いているわけであるから、当然と言えば当然なのであるが、やはり、何らかの刺激(チャレンジ対象?)が欲しい!そう思う(願う?)度合いが深まっている(梅雨だからか?)!!そんなことを思いながら、標記の見出し設定であるが、単なる妄想的期待ではない!!

と言うのも、私が求める「教育協働」の意義、言い換えれば、その必然性(自然の摂理?)は、まだまだ、学校教育、社会教育、どちらの関係者にも、それほど実感はされてはいないようではあるが、結果的には、徐々に、その姿を顕現させてきている!!すなわち、個々の取り組みに(地域によって、実施主体の違いによって、その表面的な態様は違うが?)、その実質的な形が、徐々に、否、確実に、その姿を見せ始めている!!そう、「岳陽」は、既に顔を見せ始めているのである!!

ただし、そういう動きに、今の私は、直接的には何も関わっていない!!それが、何とも歯痒い(悔しい?)ということであるが、とは言え、それは、ある意味普遍的な動きであることは間違いないわけであるので、近いうちに、私が関わっている、あるいは直接見聞きしている取り組みにも、それが見えてくるであらう!だから、「岳陽」は、意外な形で顔を見せるということである!!

○久しぶりの霧島一旅の目的は、いずこに?!

さて、時ならぬ台風の襲来ではあったが、過日、久しぶりに(3年振り)、宮崎(小林市)に住む長女一家を訪ねた!主たる目的は、早中学3年生となつて、二人の孫(双子)のクラブサッカーでの雄姿?(残念ながら?レギュラーではない!)を見に行くことであつたが、私にはもう一つ、別な目的もあつた!それは、最近知った、旧日向地域?に存在する、「地下式横穴墓(これは、何故か、その地域だけのもの!「熊襲」と関係か?)の見学である!一応、どちらの目的も、それなりに果たしたが(サッカーの方は、あいにくの雨で、しかも練習試合であり、あまり盛り上がりなかったが、遅くなつていた孫達の雄姿は、それなりに見ることはできた!)、ここで書き記しておきたい!とは、そのお陰で、再び訪れることができた、懐かしき霧島温泉郷(そして、えびの高原も!)のことである!!

と言うのも、折角、宮崎(小林)に行くわけであるので(理由は鹿児島空港、一泊は、途中の霧島温泉でしたいということ)、同行の奥さんと(ついでに書く)、旅の手配は、すべて彼女である!、当地を訪れたわけであるが、新たに泊まったその宿(溪谷の傍?)は、これまで利用した宿とは、いささか趣が違い、もう一度、是非訪れたいと思わせるものであつた(詳しくは、ここでは書けない!)!なお、古墳の方は、3カ所回つたが、一カ所は、その所在が分からず、結局は、2カ所の訪問となつた!予想はしていたので、特に問題もなかったが(現地に行つて、どういふ場所に、どういふ形で、それが残っているのか分かるはよいということ!)、果たして熊襲の墓かどうか!!

○何故、私は、「普通の上等」と言いたかつたのか?!

ところで、今更、こんなことを書いても(思い出しても)仕方がないが、私は、現職の頃、心許せる学生達(特に大学院生に、「君達(は)サラブレッドにならなくてもいい!駄馬でもいい!しかし、上等の駄馬になれ!」そう言つていた!

ちなみに、この物言いは、ある時期の、沖縄独自のCM(この「泡盛の宣伝」をパクったものであるが、何故か、その「普通の上等」という言い方が気に入る、個人的には、好んで使つていたわけである!軽いタッチではあるが(出演しているキャラクターの風貌も含めて)、どこか息苦しくて、やり場のない?沖縄の現実を、ある種のペーソスとウィットで、優しく包み込んでいるようにも思えたことを、今でも覚えていて!!

もちろん、彼らが、その物言いをどう受け止めていたのかは、よく分からないが、私の本意としては、「君達が、今学んでいるR大学は、沖縄ではそうかもしれないが、決して一流大学ではない!それに、冷静に気づけ!しかし、だからと言って、卑屈になるな!要は、その部分での生き方(貢獻)があるのだ!そして、実は、その部分の底上げが、ここ沖縄では必要なのだ!そこを自覚せよ!」そういうことを言いたかつたように思う!!

今思えば、沖縄(R大学)に対して、あるいはある意味優秀な沖縄の若者に対して、かなり失礼な物言いだつたのではないかともし思ふが、それは、ある種の意地を示したかつたのかもしれない!!そして、ある面では、それは、私自身に向けての物言いだつたのかもしれない!!本土(の人間)と同じように頑張っているのに、その力/実績がほとんど評価されない(尺度的には?)、そのような指標/結果が出ているわけだから、そう見られても仕方がないが!!

しかし、そうは言つても、苦難の歴史においては、そういうこととは、ある意味当然ではあろう?ただ、私が、今改めて意識したのは、その「ある意味当然」を引きずるな!その「ある意味当然」が、いつのまにか、自らの弱さの言い訳となつていて、ではないか?だから、そんな評価とはおさらばして、自らの生き方を、信じるままにすればよい!!それは、決して手を抜いて生きることではない!それが、まさしく「普通の上等」なのだ!(井上)

○知らなくてもよかった？出来なくてもよかった？

だが、それさえも、惑わされる時代!!

今、ここでは是非とも書かなければいけないわけではないが、一度は、このことは書きたいとは思っていたことなので(しかし、多くの人にとっては、今更そんなことをと思われれるかもしれないが)、私堂本が、標記の見出しをつけて進めてみようと思う。

要は、最近のテレビやネット情報で、生命の不思議、科学技術の進歩、古代の真相、宇宙の謎、国内や世界の動き等、あらゆる分野で、本当に様々なことが、しかも矢継ぎ早に知らされるわけであるが、ある意味？知らなくともよかった？出来なくともよかった？ものに惑わされる自分(現代人)がいるということである(ただし、これは、一重に、老いゆく人間の宿命でもあろうが!!)！

ここでは、そうしたことの二つひとつを取り上げるつもりはないが(そもそも無理である)、限りある一人ひとりの人生の中で、それらの情報や知識あるいは技術が、本当に必要なのか？そして、そもそもそれらが、その一人ひとりの人生を、豊か(幸せ)にするのかどうか!!

もちろん、これらの自問(愚問？正解は、既に明らかとなっている)は、どの時代にあつても、心ある誰かが(哲学者はともかく)、いわゆる文明批判として出してきたわけであるが、最近は(とは言っても、相対的なもの)、その範疇を遙かに越えているように思う!!実は、そのことを、ここでは書いておきたいのである！

と言つのも、こうした文明の進化・進歩は、いつの日か、絶対に終わりを迎えることも、残念ながら、今の我々は知ってしまったというところである(太陽系／銀河系／宇宙の終焉?)！つまり、少なくとも、このことだけは知りたくなかったが、それもまた、現在の「知の一つ」となっている！考えてみれば、恐ろしい事態である!!しかも、そんな中で、醜い我欲、領土欲をむき出しにしている人間(国)がいる！どうしたものか!!

〈短歌に託して〉梅雨の間に間にも、様々な思い〉

・複雑だが ひよつとしたら 岳陽が

意外な形で 顔を出すかも？

・時ならぬ 台風襲来

めげずに訪れた 霧島・宮崎 古墳は？

・サラブレッドと誤解して 挫けるよりも

上等の駄馬として 強く生き抜け！

・知らなくても 出来なくとも よかったものに

惑わされる？ だがそんな時代も!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑤

○改めて、「熊襲」／「紀・姫氏」とは？

さてさて、その怪しげな「熊襲」に関わつては、先に紹介したように、「姫氏・松野連系図」というものがあつて、そこには、件の「紀・姫氏」はもろろんであるが、何とあの邪馬台国の卑弥呼や台与、そして、「熊襲」(川上鼻師)／取石鹿文等、さらには、その後の「倭の五王」(讃・珍・済・興・武)等まで示されているという！ちなみに、同系図は、江戸末期から明治期にかけての系譜研究家(国学者)である「鈴木真年」という人が、各地の氏族系譜史料を収集し、それらを、メモ風に考査・修録したもの(『諸系譜』)の一つであるというところである(『中興系図』? 国立国会図書館と静嘉堂文庫に所蔵とある)。だから、まったく出鱈目な、いわゆる「偽書」ではないということもある!!

それはともかく、それによると、件の「松野連氏」は「吳王夫差」の後裔で(このことは、平安期の『新撰姓氏録』にも書いてあるということである)、

子・忌が日本に渡つて帰化人となり、筑紫国に至つて、肥後国菊池郡に住み、さらにその子孫・松野連が、筑紫国夜須郡松野に住して、姫姓から松野姓に変えたのが始まりとされているらしい。そして、北部九州には、同氏を祖とする氏族の家系が、複数存在するということなのである!!

と言つことは、この「松野連氏」が、まさに「姫木／紀氏」(の本流?)であり、現在追及中?の「老松」(三階松?)、すなわち「木の公(あきみ)」であつたのではないか!!しかも、繰り返すように、この老松神社は、いわゆる欠史八代の最後「開化天皇(第九代)」を主祭神とする、謎?の神社ともされる!!そして、次の第10代が、新たな(真の?)「ハツクニシラスメラミコト」とされる「崇神天皇」である!したがつて、ここに何か隠されている!!そう思わざるを得なくなるのである!!

また、それに関わつては、当然?第8代の「孝元天皇」も、その謎に与している!!すなわち、開化天皇は、孝元天皇の第二皇子(母は、皇后で、鬪色雄／内色許男)と命・穂積臣遠祖(穂積臣は「物部氏」と同祖)の妹の鬪色謎／内色許売)と命!同母兄弟には、大彦命・少彦男命・倭迹迹(日百襲)姫命、異母兄弟には、彦太忍信命・武埴安彦命がいる!

さらに、その孝元天皇は、孝靈天皇(第7代)の皇子(母は、皇后で磯城郡または十市郡主天目の娘)。同母兄弟はいないが、異母兄弟に、倭迹迹日百襲姫命・彦五十狹芹彦命(吉備津彦命)・稚武彦命ら。穂積臣の祖の鬪色雄命の妹の鬪色謎命を皇后として、大彦命・稚日本根子彦大日尊(後の開化天皇)らを得た。

また伊香色謎命、埴安媛を妃にし、伊香色謎命との間には、葛城氏・蘇我氏の祖彦太忍信命を得た。埴安媛との間には、御間城天皇(崇神天皇)の代に反乱を起すこととなる武埴安彦命を得た。※とんでもないことになった!この続きは次号で! (堂本)

〔編集後記〕今回は、梅雨、そして、時ならぬ台風の襲来もあり、生活のリズムが少し狂つたように思うが、久し振りに長女一家とも、当地(小林)で会うことができ、そして、何より素敵な温泉旅館(霧島)にも泊まることができ、非日常の良さを満喫出来た。やはり、いいものである! (井上／堂本)